

第5章 || 商業・流通

本章では、改革開放後の約30年間における中国の小売業の変化と現状を分析し、その変化をもたらした主な要因として改革と外資導入について述べるとともに、中国の商業と流通を理解するためには「制度改革」と「グローバル競争」という二つの視点が重要であることを示したい。

世界経済の景気低迷が長引くなかで、中国の消費市場の急速な拡大が注目を集めている。中国経済は「圧縮成長」と形容されるように、商業も流通システムも、日本が戦後約50年近くかけて進めてきた発展のプロセスを、わずか20年ほどに圧縮して急激に変貌している。

1978年までは、中国の流通体制は、計画経済時代に形成された「三大分割（行政組織の縦割り・地域ブロックの横割り・商品種類の分割）」と「三固定方式」（後述）という特徴を有する配給制度であった。1984年から始まった制度改革は、国营商業の支配的な体制を漸進的に打破し、行き詰まりつつあった計画配給体制を活力ある競争的な市場システムに転換することを目指していた。80年代においては、中国経済の市場化の変化は、商業と流通の分野で最も顕著に現われていた。

計画経済時代の硬直的なシステムに対する改革がもたらした影響に比べて、対外開放政策が商業と流通に与えたインパクトはさらに